

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 4 月 25 日
事業所名	アットホームあいり
事業所番号	2370400992
記入者名	職名 管理者 氏名 舟木律子
連絡先電話番号	052-509-5115

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「感謝、尊敬、謙虚、誠実、情熱」を行動の基本とし、入居者様一人ひとりが自分らしく、いきいきと安心して暮らしていただけるように支援するために、「女性は女性らしく、男性は男性らしく、人間は人間らしく」を理念に掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に意識するよう事務所内に理念を掲示してある。また、申し送り確認を行っている。	○
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族会や運営推進会議などで理解をいただけるよう取り組みを行っている。	○
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	イベント開催の時など近所の皆さんに声をかけ、参加していただくよう努めているが、普段において気軽に立ち寄っていただけるようなところまでは至っていない。この点については、自治会長さんをはじめ、民生委員の方などの意見として、この学区は古くからある町ではないので隣近所の関わりが薄いとのお言葉も伺っている。	○
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議やいどばた会を通して交流を行うよう取り組んでいる。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	「いどばた会」で介護保険制度についてやその他質 問に対し、介護の専門化としての立場から情報提 供を行っている。	○	独居の高齢者に対する支援を考えていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果に対し、ミーティング等で話し合いを行 い改善に取り組んでいる。	○	具体的改善策とそれに対する結果がでるところま では至っていないため、今以上に取組んでい きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	まず、現在は「いどばた会」を毎月2回実施してい る。	○	運営推進会議がもっと活発な会となるように取り 組んでいきたい。
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	積極的に行き来する機会を作っていない。運営推 進会議への参加もお願いしたが受け入れられない 状況である。	○	これまで以上に積極てきなアプローチを持って、 多方面からのサービスの質の向上に取り組む。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	全体として具体的取り組みは行っていない。	○	研修等への参加を支援していきたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	得意虐待等が実際にはないため意識的には低いと 思うが、虐待を見過ごし隠すような関わりにおけ る不透明さはない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>実施している。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>利用者が意見を発しやすい環境を出来るだけ作り、日々傾聴している。ご家族と利用者が話せた後に、様々な訴えがなかったか確認する。</p>	○	全ての職員が、ご家族に対する働きを行い、迅速に対応する。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p> <p>毎月必ず近況報告等を文書にし、写真を添付し（たより）としてお送りしている。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>運営規程により相談窓口を設けている。外部者に相談や苦情を伝えることが必要なケースが一度もないが、もし、このようなケースがあれば積極的に取り組んでいきたい。特にホーム長や介護支援専門員は密に連絡を取っている。</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月1回、全体ミーティングとスタッフミーティングを開催し、意見交換をおこなっている。</p>	○	機会を設けるだけでなく、発言できる勇気ある人材を育成する。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>企画行事の際や受診の付き添い等の予定にあわせ、可能な限りスタッフの人数調整や勤務時間の調整を行っている。</p>	○	総スタッフ人数を充足させ、ゆとりある人員配置に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職者に対しては、OJTによる2週間のマンツウマン指導を行う中、利用者様との間に馴染みのスタッフが入るよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回ミーティングの際、勉強会を行っている。また、毎月1回他のグループホームと一緒に勉強会を開催している。必要に応じ、各種研修にも参加する機会を設けている。	○	他の法人や他の施設へ研修があると良い。研修等への参加への参加も重要であるが、自ら勉強する風土作りに努めたい。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区の他の3つのグループホームと毎月1回の交流会、勉強会を実施している。	○	この会を継続して実施して行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に2日の希望休がある。休憩時間を取れるようになり、気分転換がはかれるようになった。仕事場以外での集まり、食事会を開催し気分転換を図っている。	○	勤務内での休憩が十分取れるような人員配置と環境整備を行いたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	給与や賞与において評価されている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム長が可能な限り、入居前に本人と直接面談を行っている。また、暮らしていた家を訪れ、馴染みの環境を把握するよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホーム長が、ご家族からこれまでの背景や今後のご要望等をお聞きし、より良い生活の支援が出来るよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居だけでなく、デイサービス等の活用による在宅介護を含め相談に応じている。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空室がある際は、ご家族と一緒に体験入居をしていただいたり、可能な限り入居者ご本人に起こしただけようご家族に働きかけている。	○ 入居前に何度も遊びにきていただいたり、行事に参加していただける工夫をする。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来ている。	○ もっと、もっとたくさんの事を教えていただける場面を作る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	良い事にならず、辛い内容でも同じ立場で報告し、支えあう関係になっている。	○	家族会や来訪時を活用し、更なる関係を築く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前において家族関係が悪くなっていた家族においても、より良い関係が築けるように支援する事で、入居後良い関係を築くことができているケースがいくつかある。	○	ご家族から見て、本人がより良い生活が出来ていると思えるような支援を行っていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	色々な方が来訪していただけるような環境整備と、ご家族への積極的なはたらきかけを行っている。(グループホームに入居している事を周囲の方に知らせる。)	○	遠方である場合もあるが、可能な限り馴染みの場所に同行できるようにする。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	認知症のレベルにより困難な場合もあり、全体の関係はまとまっていない感もあるが、ユニットという単位にこだわらず、自由にユニット間を行き来でき、気のあった仲間と関わりが持てるよう支援している。	○	利用者同士の関わりを、表面的だけでなく、より深く理解する。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	出来ている。	○	他介護事業所へ移り変わられた場合、関係を断ち切らない関わりが継続できるよう、他事業所への理解を求める努力をする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思や希望に基づき選択する暮らし方に配慮している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を用い、これまでの暮らしを把握したり、来訪されたご家族より情報収集を行ったりしながら把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	定期的なバイタルチェックや一般状態の観察に努めている。 周辺症状等を記録に残し、スタッフ全員が把握するよう努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当チームによるモニタリングやケアプランの見直しを行っている。また、ミーティングの場も活用している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しと身体的、精神的変化に基づき介護計画の変更を行うよう努めているが、ご家族の反応が薄く十分な状態とは言えない。	○ ご家族との話し合いの場を増やし、相談しながら計画の見直し等を実施していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有し実践することは全ての利用者に出来ていないとは言えないが、記録を怠らず特に観察のポイントがある事柄には見出しをつけ、日勤者→夜勤者の間で申し送りがされている。	○	記録をもう少し簡潔にする必要がある。新たに抽出された気づきや工夫を、次の関わりに生かしていく流れが必要である。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じ受診の付き添いを行っている。個々に映画鑑賞や歌舞伎鑑賞、個別の買い物や外食への支援も行っている。	○	家族会などを利用し要望に向き合える機会を作る。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの訪問や、子供110番の家になってはいるが、個々の意向や必要性に応じては言いがたい。	○	消防署・警察・地域の主となるメンバーと、もっと積極的に日々の関わりを持つ事が出来れば、災害時・緊急時における迅速な対応が望めるので、必要性を感じている。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。	○	本人がそれらに対し、意向・必要性を求めているかを把握する必要がある。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない。	○	本人がそれらに対し、意向・必要性を求めているかを把握する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来ている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	直接職員が相談できる場はないが、ホーム長、副ホーム長を中心に専門医との関係は築けている。必要に応じて診断・治療は受ける事が出来る。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	気軽に相談し、日々の医療面での考察やアプローチについての的確な指示を受ける事が出来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご家族をはじめ、ホーム長・看護師が病院関係者と情報交換を行い、早期退院にむけた関わりや、退院後のケアについて努力している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族へのアンケートをはじめ、直接ご家族とかかりつけ医との間で話がなされ、それに基づいた関わりを意識している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備えて予期される内容について、できる事・できない事の見極めは出来ているが、具体的な検討や準備は行っていない。	○	職員間での話し合いを深め、知識・技術の向上に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境変化に伴う不穏について、事前にご家族や職員へ伝えることが出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	していない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のわかる力に基づいた働きかけや、自己決定できるような支援を行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいかという個々の希望には支援しきれていないが、何かやりたい事（買い物へ行きたい等）へは出来る限り支援を行っている。	○	全体の状況によっては、希望に添えない事もあるので、原因を究明し改善する。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	「自分なら」という一人称の視点で西洋の支援を行っている。スタッフに美容師が居るのでカット・パーマ・カラーまでホーム内で行えるため、現在は積極的には店へ出向く事がない。以前においては、なじみの美容室まで付き添う事もあった。	○	美容院へ出かけることが可能な方へは、意向を伺う事にする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に利用者と共に準備・食事・片づけを行っている。利用者の意向を取り入れながら毎月外食へ出掛けている。	○	献立・食材決めも含め、利用者とは相談し準備が出来るよう意識したい。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	出来ている。		
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	各々の排泄パターンに基づき声かけ・誘導を行っている。衛生用品の使用は目的を明確にし支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	不穏になりやすい要素もあり、楽しむ事の出来る支援としては難しいが、無理強いはしない。遅番の時間をずらしたりして、出来る限り希望に添うように努めてはいる。	○	スタッフ都合による声掛けが、まだ一部見受けられる。要改善。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	全ての利用者が良眠できているわけではないが、安易に眠剤などは使用せず、出来る限り不安や不眠材料を取り除く支援を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	情報が不足している面も否めないため、生活歴に沿っているとは言いがたいが、現在の生活の中で個々に役割や楽しみはもっていただけている。	○	入居以前の情報収集をご家族の協力も得ながら行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、ご家族からの希望もあり難しい問題がある。可能な方へは支援している。	○	ご家族と話し合い、目的を理解していただけるようにする。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりに対しての希望にはそえていない日もあるが、買い物などの要望にはこたえている。出て行ってしまわれる方に対しては制止はせず見守る。天気の良い日は、車椅子を利用してでも外出できるよう声かけをしている。	○	”忙しそうだから申し訳ない”と感じている利用者もいるため、気を遣わせることがないように心がける。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	皆で月に一度の外出へ出掛けている。個別には少ないが、お墓参りや以前の住居、銭湯へは出掛けている。映画館や御園座への感激も実施。	○	希望にこたえる為に情報を収集する。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも行っている。ご家族とへも理解をしていただけるよう働きかけている。手紙に関してもレターセットや切手を購入したり、ポストまで行く支援を行っている。職員が個別に年賀状を出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	出来ている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解しているかどうかは不明だが身体拘束はない。	○	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を掲示し正しく理解する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解し取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる。	○	包丁・ハサミ・針以外にも、工具等使用する場面を作る。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に意識は持ち合わせているが、実際に起きてしまった事故における反省・課題が次の事故防止に生かしきれていない。	○	ヒヤリ、ハッと対策を設け、具体的な改善に努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないが、必要に応じミーティングにて看護職中心で学習の機会がある。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っているが日中のみ。地域の協力が得られるかどうかは不明。	○	推進会議を通し地域へ働きかける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月の近況報告をはじめ、必要に応じ迅速に行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	夜勤者からの申し送りや午前中のバイタルチェックにより、その日の状態を把握し、勤務者へ情報を共有している。大きな変化がある場合はホーム長、看護師、主治医の指示を仰ぐ。	○	個々の知識・技術の向上。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おおむね理解している。個々に服薬袋が用意しており、薬名、効能が記載しており、すぐにわかり目に付くようにしてある。薬剤師から指導を受けている。	○	薬剤師からの協力を得て、薬に関する勉強会を行う。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬を使用したり、腹部マッサージなどは行っているが、対応策として食材に注目している事が少なく、自然に排泄を促す働きかけが積極的に行われていない。	○	多方面からのアプローチを行う。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、全員には出来ていない。歯科医、歯科衛生士の指示に基づき必要な方へは行っている。義歯の手入れも定期的に行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量はチェックし、塩分や水分量は意識し個々にあった支援を行っている。カロリー計算はしておらず、日によっては必ずしもバランスが良いとはいえない。	○	栄養士に献立表を見てもらいアドバイスをもらう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	米国CDC（疫病管理予防センター）ガイドラインのそって流水での手洗いを実施している。その他についてもマニュアルがある。	○	マニュアルの活用。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に目立った工夫はないが、一般の家と変わらない外観となっており、正面からは四季折々の草木のある庭が見えるようになっている。日中の出入りは自由にでき、子供110番の家になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	誰もが住みたいと思う家、温もりのある空間であることを意識している。飾りたてるのではなく、季節を感じられる花や置物で工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	設備的に一人になれる空間が居室以外に少ないので、臨機応変にソファや机の配置を変えて工夫している。庭で過ごす時間も大切にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などが飾られた部屋も多いが、ご家族が準備した新しい家具を持ち込むケースが少ない。居室以外では自宅で育てていた植物をホームの庭に植え替えたりしている。	○	入居前にご家族様へグループホームの目的等を理解していただくと共に、積極的に働きかけ馴染みの品や好みの壁掛けなど持ち込んでいただけるようにする。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気を意識している。日中も巡視時間を設け、掃除時のみならず、臭いや湿気、温度調整を行っている。	○	ポータブルトイレ使用者の居室に関して、更なる改善に努めたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面でカバーしきれない部分は、職員との関わりで補っている。	○	施設や病院のような内部にはしたくないが、今後重度化していくかもしれない利用者に対し工夫が必要となったとき、対応できるだけの引出しは持っていたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口へ表札をつけ部屋の間違いを防ぐようにしている。基本的には声かけや見守りなどのソフト面で工夫している。	○	ハード面に頼ることなく、個々のわかる力を把握し支援する。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には数種類の草木があり、四季を通し楽しむ事が出来る。利用者が自由に使える花壇もあり、植物を育てたり、摘んで居室へ飾ったりできる。家族や近隣の方も含めバーベキューや餅つきを開催している。	○	すぐ近くに同法人のデイホームがあり、散歩を兼ねておやつを食べたりできるが、積極的には行っていないため、個々の希望に沿い支援する。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・月1回の外食も含め外出する機会が多い。
- ・スタッフ、入居者ともに個性が豊かで、スタッフは一人一人その人ならではのケアができています。
- ・推進会議を通し、地域への働きかけの一步として”いどばた会”をスタートした。介護保険や認知症について質問会を行っている。会で行われている健康体操へは、一部ではあるが利用者も参加できており、今後の地域交流が期待できる。
- ・入院された利用者の精神レベルの低下を防ぐ目的で、早期退院に向け積極的に以下の事を行っている。ほぼ毎日病院へ出向き、情報収集や馴染みの顔を見ていただくことで利